八雲町郷土資料館農機類標本台帳

一般名称: 荷馬車	現地の通称:

資料種別: ◉ 製品-実物 ○ 製品-レプリカ ○ 製品-模型 ○ 製品図面 ○ 写真等 ○ 図書掲載 ○ その他

資料種類:
- ☐ 人力用具 ☐ 手押式 ☐ 耕耘用 ☐ 調製用
- ☒ 畜力用具 ☐ 乗用式 ☐ 施肥播種 ☐ 施設類
- ☐ 原動機具 ☒ 牽引式 ☐ 管理用 ☐ 機素
- ☐ トラクタ具 ☐ 定置式 ☐ 収穫用 ☐ その他

管理プレートNo.

台帳No. Y028

相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: 不明

製造市・国名

製造年_購入年,標本収集年

使用目的・使用方法等

荷物運搬用の馬曳馬車、すべての生産資材から収穫物までの運搬に利用。

江戸時代の農書類には、雪上の橇による運搬は見られるものの、荷馬車は掲載されず、ほとんどが人力運搬か、馬の背に乗せた運搬法である。しかし、1982年製作と言われる岐阜県農具図には、運搬に苦労したと思える肥桶を吊り下げて運ぶ肥挽車と台に乗せる糞挽車および2輪と4輪の荷馬車が掲載されるため、幕末から明治初期に使われ始めたと思われる。

利用経過収集記録意義等

未調査

鉄車輪の馬車は、道路に轍(ワダチ)を作ってぬかるみ、走行時の抵抗が大きくなるため、1919年に開業して馬車を販売した北札ゴム車両製作所(野坂慶最)は、1933年にゴムタイヤ車輪馬車を開発し、道路を傷めないとして「保道車」の名称で販売し、全国に広まった。

仕様書_解説等

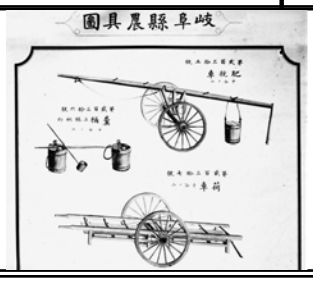
仕様未調査

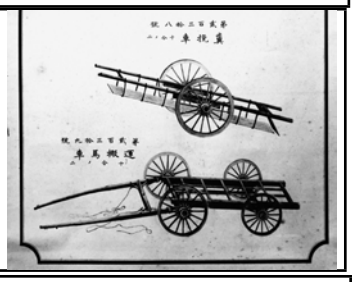
関連図1：石狩型2輪馬車

3-4：岐阜県農具図、下肥の利用が一般化する時代が始まりだろう

右に全体図

外観特色関連図等





資料の所在: 屋外展示

資料追記事項

資料管理経過

作業メモ追記文

農業機械学会北海道支部「農機DB作成委員会編